

おらほ！のまちづくり

目次

▶青葉区 (P.2) :

学生と一緒に夏祭りを盛り上げよう！～二町内会合同夏祭り実行委員会～

▶宮城総合支所 (P.3) :

定義・大倉の四季とともに、みんなで取り組んできた地域おこし～大倉四季探検～

▶宮城野区 (P.4) :

地域待望の仙石コミュニティ広場オープン～仙石コミュニティ広場管理運営会～

▶若林区 (P.5) :

「住みよい・住みやすい・住み続けたい街」を目指して～南材地区防犯協会～

▶太白区 (P.6) :

みんなが安心して暮らせる地域を～茂庭台 地域活きいきプロジェクト～

▶秋保総合支所 (P.7) :

さかいの地区 魅力ある地域づくり～さかいの地区創生会の活動～

▶泉区 (P.8) :

地域の縁側をつくる四つの活動～結いの会・高森東～



お知らせ



コミュニティソーシャルワーカー (CSW) にご相談ください
～住みよい地域づくりをお手伝いします～



「コミュニティソーシャルワーカー (CSW)」をご存じですか？

CSWは仙台市社会福祉協議会の各区・支部事務所にいます。地域の皆様から寄せられる福祉課題について、その解決に向けた取り組みや地域づくり活動の支援を行っています。支援にあたっては、地域にある様々な団体や相談機関、事業所などと連携できるよう、地域の社会資源とのつなぎ役もつとめます。

お話を丁寧に伺いながら、地域の実情に沿って一緒に考えます。お気軽にご相談ください。

■CSWの活動事例

高齢の男性が孤立しないよう緩やかな交流の場が
つukれないかな？



- ・地域包括支援センターと課題共有
- ・近隣の店舗に協力依頼
- ・地域団体や企業と企画の検討
- ・関係者との連絡調整



新たな集いの場
「シニア男子のコーヒー
の集い」がスタート！



■お問い合わせ お近くの市社会福祉協議会各区・支部事務所まで

- 青葉区事務所 (Tel022-265-5260)
- 青葉区宮城支部事務所 (Tel022-392-7868)
- 宮城野区事務所 (Tel022-256-3650)
- 若林区事務所 (Tel022-282-7971)
- 太白区事務所 (Tel022-248-8188)
- 泉区事務所 (Tel022-372-1581)

発行

- 青葉区役所まちづくり推進課
☎ 022-225-7211 (代表)
- 宮城総合支所まちづくり推進課
☎ 022-392-2111 (代表)
- 宮城野区役所まちづくり推進課
☎ 022-291-2111 (代表)
- 若林区役所まちづくり推進課
☎ 022-282-1111 (代表)
- 太白区役所まちづくり推進課
☎ 022-247-1111 (代表)
- 秋保総合支所総務課
☎ 022-399-2111 (代表)
- 泉区役所まちづくり推進課
☎ 022-372-3111 (代表)
- 市民局地域政策課
☎ 022-214-6129 (直通)

学生と一緒に夏祭りを盛り上げよう！ ～二町内会合同夏祭り実行委員会～

▶ 学生参加による地域づくり

水の森町内会と荒巻泉ヶ丘町内会が合同で行っている夏祭りは今年で40回目。今年は宮城学院女子大学のよさこい部「Posso ballare? MG」（ぽっそばらあれ）の華やかな姿もあり、より一層賑わいのある夏祭りとなりました。ちなみに「Posso ballare?」とは、イタリア語で「踊ってもいいですか?」という意味なのだとか。



↑ Posso ballare? MGの皆さんのよさこい演舞によって、記念すべき40周年の夏祭りがさらに盛り上がりました！

「今年は合同夏祭り40周年。一味違う祭りにしたかった。」そう話すのは二町内会合同夏祭り実行委員会の吉田委員長（水の森町内会会長）と倉田さん。節目の年として、毎年恒例の抽選会の景品を豪華にしたほか、宮城学院女子大学のよさこい部に参加を依頼しました。夏祭りへの学生の参加は初めてでしたが、大学や水の森市民センターの協力を受け、スムーズに参加につながることができました。夏祭り当日は大学の試験期間だったこともあり、スケジュールの組み方に気を付けたほか、メールで連絡を取り合うようにするなど、授業などで忙しい学生の負担にならないように配慮したそうです。

「ぽっそ入場！」の明るい掛け声から始まるよさこい部の演舞。祭りが一気に盛り上がりました。学生の演舞に合わせて楽しそうに踊る子供たちの姿もとても印象的で、地域の方々からアンコールの声が挙がる場面も。また、演舞後に、地域の皆さんとの盆踊りに参加した学生の姿へは「華やかでいいね。」「盆踊りが一気に賑わった。」といった声があり、吉田委員長は「皆さんにも喜



↑ 地元の子供たちが学生と一緒に踊る場面も♪

んで頂けたようだ。来年もぜひ参加して頂きたい。」と語ってくれました。

「Posso ballare? MG」に今回声を掛け

た理由は「近隣で活動しているよさこいグループを探していたところ、近くの大学である宮学のよさこい部を見つけたから。」とのことでしたが、今では町内会と大学とのつながりもでき、とても良いきっかけになったとのこと。

町内会の夏祭りや老人ホーム、保育所などの地域イベントで積極的に活動を行っている「Posso ballare? MG」。代表の小野さんと木村さんは「毎年自分たちの演舞を待っていてくれたり、演舞を見て温かい声を掛けてくださるので地域での活動はとても楽しい。依頼があればできる限り受けたい。」と話し、依頼が多い時期には一日に2か所のイベントに出演することもあるそう。地域で活動するほか、各地のよさこい祭りなどのコンテストにも参加していますが、地域のイベントではコンテスト用の演舞のみでなく、観ている人もその場で一緒に踊れるような演目も取り入れるなどの工夫も。また、新規の出演依頼は基本的に大学を通じて受けることが多く、ぜひたくさんのご依頼をいただけたらと話して



← 参加している皆さんで輪になっての盆踊り！



事例のポイント

長く続いている地域合同の夏祭りに、学生団体という新たな協力者が加わることで、地域の方々の参加が促され、昔ながらのイベントがさらに盛り上がるものとなりました。

青葉区では

学生と地域づくりを行う町内会を応援しています

青葉区まちづくり推進課では学生参加によるまちづくりを支援する制度「あおば学×まち（がくまち）ネット」を実施しています。各種行事やサロンなどに学生を呼びたい、学生の力を借りたいという町内会の皆様へ登録している学生団体をご紹介します、学生との活動につなげています。地域を盛り上げたい町内会の皆さん、「学×まちネット」で学生を地域に呼んでみませんか？（「あおば学×まちネット」は青葉区の町内会を対象に実施しています。）

定義・大倉の四季とともに、みんなで取り組んできた地域おこし ～大倉四季探検～

▶「大倉四季探検」活動のきっかけ

定義如来西方寺周辺にホタルが集まる美しい小川を取り戻そうと、平成10年に始めた「定義ホタルの里づくり」がきっかけとなり、平成21年の「大倉四季探検」の発足につながりました。発足当時の20名からメンバーの入れ替わりはありますが、現在も同じ人数で活動しています。会長の小林守さんのお話によると、大倉四季探検という名前には「訪れる人に定義如来様のお参りだけではなく、地域の四季の楽しみに触れてもらいたい。」という思いを込めているのだとか。



←
あいにくの天気でしたが、定義ホタルまつりは多くの親子連れで賑わいました！

▶大倉の四季の楽しみに触れる4つのイベント

現在の大倉四季探検の活動は、四季ごとに開催する4つのイベントが中心となっています。

1つ目は毎年たくさんのホタルが乱舞する人気のイベント「定義ホタルまつり」です。みんなで草刈りや清掃を続け、小川をきれいに保ってきたことが実を結んだという小林守会長のお話に、メンバーの早坂廣行さんと櫻井浩さんが嬉しそうに頷いていました。

2つ目の「定義カブトムシの森」は平成21年から開催しているイベントです。試行錯誤を繰り返し、今ではたくさんのカブトムシを定義の会場に展示できるようになりました。最近、メ

→
定義カブトムシの森で触れるカブトムシに興味津々！



ディアの紹介もあって来場者が増加しており、少しですが利益も出ています。副会長の瀬上征さんは「子供たちと触れ合いながらの地域おこしは楽しい。子供たちの楽しみを我々の楽しみとすることで、それを生きがいにして続けてきた。」と語ります。

3つ目は「収穫祭・定義軽トラ市」です。地元農家の皆さんの協力によって、10台以上の軽トラックを並べて開催しています。旬の野菜だけでなく、お餅等の料理も出しており、定義如来西方寺で昔から作られているズイキが入った野菜だけのお雑煮が人気です。

最後の「定義雪まつり」は、昼の雪あそびと夜の雪灯籠と昼夜を通して楽しめるイベントです。準備には、重機操作ができる人が雪集めを、大工さんが建物の組み立てを、というように、ノウハウを持つ地域の人たちが協力して、イベントを地域全体で支えているのが大きなポイントです。

「どのイベントも準備は大変だが、毎年継続しているからこそ、誰が何を

やるか、暗黙の了解でやれるのが強みです。」と大倉四季探検事務局の梅津義政さんは語ってくれました。



↑ 野菜満載の荷台が並ぶ定義軽トラ市の様子



← 西方寺伝統の「ズイキ」が入ったお雑煮

主催イベントの開催日と来場者数

- 定義ホタルまつり
令和元年7月6日(土)
来場者 1,800人
- 定義カブトムシの森
令和元年7月13日(土)～15日(月・祝)
来場者 4,000人
- 収穫祭・定義軽トラ市
令和元年10月26日(土)
来場者 600人
- 定義雪まつり
例年2月上旬開催
来場者 800人(※前回実績)

▶地域みんなで取り組んできた自信

これまで年長者が活動をけん引しつつ、若い人たちも参加してきました。若手メンバーの早坂慎也さんからは、「親が頑張っている姿を見て育ち、大人になってそのまま違和感なくバトンタッチしている。」という話が、庄司

まゆみさんからは「みんなで一緒にやるのは楽しい。どんなに準備が大変でも、周りが助けてくれるので苦になりませんよ。」という話が聞けました。小林守会長も「これは定義如来様のお導き。昔から変わらない。」と語ってくれました。

また、新たな活動として他の地域の皆さんと協力して進める「鯉のぼり×大倉ダム」(主催：大倉ダム鯉のぼり実行委員会)も始まりました。これまで地域みんなで心をつなげて取り組んできた自信がメンバー全員にしっかり根付いており、次のステップへの挑戦につながっています。



← 定義雪まつりで楽しめるスノートレインは、順番待ちになるほどの人気なのだとか。

事例のポイント

継続は力なり。地域おこしのイベントを毎年継続して開催することで、地元への愛着と一体感が強まり、世代を超えた「地域の支え合い」の力になります。

地域待望の仙石コミュニティ広場オープン ～仙石コミュニティ広場管理運営会～

▶広場の構想

この地域には、平成17年3月に稼働停止した市のごみ処理施設「小鶴工場」の跡地があり、その活用方法について長年協議されてきました。これについては、近隣の8つの町内会から構成される仙台市福田地区町内会連絡協議会でのアンケート調査をはじめとして、地域住民の皆さんも構想段階から積極的に参画してきた経緯があります。

この地域は以前から、大雨時に水害に見舞われることが多く、「災害時の避難拠点としての活用を」という声は特に多く寄せられていました。

平成25年5月に「小鶴工場」の解体工事は完了しましたが、その後は復興関連工事の資材置き場として使われ、概ねその役割が終わる平成28年度より、跡地利用についての具体的な協議を仙台市と開始したのです。

▶基本設計からオープンまで

地域の要望である「地域住民の交流の場となるような施設で、防災機能も併せ持つこと」をコンセプトに施設はデザインされました。特定のスポーツ等に特化しない多目的に利用できるコミュニティ広場（東側は土系舗装、西側はアスファルト舗装）

として整備し、災害時にマイカー避難場所としても活用できるように、西側の広場はアスファルトで盛土をして、高さを確保しています。

また、コミュニティ広場の管理・運営にあたっては、仙石・福住町両町内会を中心として、公園愛護協会や地域のスポーツ団体などで構成する管理運営会を結成しました。

地域の住民が気軽に利用できるように、広場利用についてのルールや運営方法も管理運営会の場で検討を重ね、令和元年10月1日にオープンしました。



↑管理運営会事務局の皆さん。9月28日には、開所を記念した式典も開催されました。



↑西側多目的広場（アスファルト系）の様子。災害時にはマイカー避難場所として活用される場所となります。

→
新しくできた広場には、さっそく利用する地域の子供たちの姿が。

▶今後の広場の管理・運営

10月1日のオープン後まもなく、台風19号による大雨で一帯が水浸しになる中、仙石・福住町両町内会エリアの皆さんの多くが、さっそく車を広場へ避難させ、230

台あまりが浸水被害を免れることができたそうです。その後週末に到来した大雨時にも多くの車が避難し、地域

の防災施設としての機能が地域に認められることとなりました。

広場のオープンを迎えるまでは、特に地域のスポーツ団体等が利用する場合、草刈り等の運営に参加・協力することなど広場の管理・運営について検討してきたところですが、10月の車両避難の経験を踏まえ、災害時の避難にあたっての細かいルール作り等に現在取り組んでいるところです。



↑西側多目的広場が、早速マイカー避難場所として活用されている様子。

事例のポイント

地域の皆さんが「大雨になると周辺が水浸しになる」という問題意識を抱えていたからこそ、車での避難も考慮された施設が完成しました。今後は地域の方が利用しやすいルールの策定などが期待されます。

「住みよい・住みやすい・住み続けたい街」を目指して ～南材地区防犯協会～

▶地域に寄り添う防犯を

南材地区は、戦前の街並みと近代的な建物が混在し、仙台市営地下鉄河原町駅を擁する、交通の便も良く賑わいのある街です。

南材地区防犯協会は、平成2年に仙台南地区防犯協会連合会南材地区防犯協会として発足以来、日々熱心に活動を続けて30年近く地域の防犯に寄与してきました。

今年度は、念願の若林区を管轄する若林警察署が開署し、若林区防犯協会連合会南材地区防犯協会として新たに生まれ変わったこともあり、警察をはじめ、地域内の関係機関、団体との連携をより強化していきたい、と当協会の片岡会長は意気込んでいます。



若林区防犯協会連合会 会長 片岡 昭夫氏

▶毎日、毎月の見守りとして

主な活動として、毎月15日を「安全安心の日」と定め、年金支給日の偶数月は、金融機関利用者対象の特殊詐欺被害防止のキャンペーンを行い、奇数月は子供や女性を犯罪被害から守るための見守り活動を行っています。当協会のメンバーが当日の朝に集まり、若林警察署の生活安全課、河原町交番等の協力を得て、金融機関やコンビニエンスストア前で、街頭キャンペーンを行っています。取材を行った日はとても暑い日でしたが、どのメンバーも元気に笑顔



↑毎月15日「安全安心の日」の活動をされている皆さん

で声がけ等を行っており、街を良くしたいという熱い思いが伝わってきました。

また、10年以上にわたり、雨の日も風の日も、地元の南材木町小学校の校門と通学路において、児童たちの登下校時にあいつ運動を実施しています。毎日顔を合わせるため、活動するメンバー

は児童の間ではちょっとした有名人です。以前、児童の保護者から、毎日の見守りを感謝する内容の投稿が新聞に掲載され、とても励みになっているということです。季節を問わず毎日活動を行うことは、地道でとても根気があることですが、今後も児童たちの見守りを続け、児童だけではなく保護者たちにももっと活動を知ってもらいたい、と会長は展望を語られていました。

その他にも、年2回「地域安全安心推進パレード」や、「広瀬川ふれあい活動」を実施しています。どちらも安全安心意識の高揚のほか、共通して「環境整備、美化活動」としての意味合いも持っています。パレードでは、パトカー等3台が先導し、3チームに分かれて街を歩きましたが、全般的にたばこの吸殻等のごみも少なく、街には落書きもなく日々の活動の成果が現れているようです。参加したメンバーからは、パレードに参加するたびにゴミが少なくなっているという声も聞かれたそうです。

広瀬川ふれあい活動では、八軒中学校・南材木町小学校の先生や児童、保護者、民間企業や地元住民等が集まり、広瀬川沿いにある花壇の清掃と花の植え替えを行っています。毎年、春と秋に行っており、令和元年5月に行われた活動では、100名近い参加がありました。児童たちの発案で、ただ整然と花を植えるだけではなく、かわいらしい構図で植えることでさらに景観が和やかになりました。普段の花の手入れも、地元の町内会の協力で成り立っており、街に明るさをもたらしています。



↑今年の春に開催した「広瀬川ふれあい活動」で植えた、児童たち発案の可愛い◎マークのお花たちです♪

▶「きれいな街」は犯罪が起きにくい

「建物の窓が壊れているのを放置していると、誰も注意を払っていない象徴となり、やがて他の窓もすべて壊されてしまう」という犯罪理論（割れ窓理論）があります。南材地区は犯罪が比較的少ない地区とのことで、それは日々の地道な防犯活動や、街をきれいにし、街に愛着を持ち、より良くしようとする取り組みがこの理論を体現しているようです。これからも、地域一丸となって、防犯に取り組むとともに子供たちの健やかな成長を支えていきたいという力強い思いが感じられました。



↑子供たちにも人気!? パレードで先導する河原町交番のパトカー

事例のポイント

「自分たちが暮らす街を大切にしたい」という思いから始まった一歩が、その活動を長年継続することで、当初からの目的である防犯面だけでなく、環境美化活動への拡大等の波及効果を生み出しています。

みんなが安心して暮らせる地域を ～茂庭台 地域活いきプロジェクト～

▶地域住民の結びつきを強めるために

「地域活いきプロジェクト」は特別養護老人ホーム茂庭苑の地域貢献活動の一環として始まった活動から発展したプロジェクトで、今年度新たに住民主体の「活いきサークルたんぽぽ」を立ち上げて4月から活動を開始しました。

活動拠点の生出・茂庭台地区は、他地区同様に少子高

齢化が進んでおり、高齢になって転居してくる世帯もあります。そうした中、住民同士の結びつきを強くして、住民が地域の課題を自分の事としてとらえることで、様々な世代が一緒にまちづくりに参画できるような地域を目指し、定例講座やオレンジフェスタなど様々な活動を進めています。

▶高齢者同士の交流の場

「定例講座とサロン活動」は、地域住民の皆さんが生活に必要な情報を得ると共に、それぞれが顔見知りになり、お互いの交流を深めることを目的として行っている活動です。

定例講座では、基本的に会員の皆さんが「聞いてみたい」と思うような問題を取り上げています。たとえば最近のお墓事情や熱中症対策、断捨離…等々、時には参加者から次々と質問が出て、時間を延長することもあるとか。

定例講座の後は「たんぽぽサロン」が始まります。皆さんで飲み物やお菓子を楽しみながら、講座の感想や今後の活動について、他愛もない世間話から相談事

まで色々な会話を交わす姿が見られました。

会員数は現在29名で、随時募集中。ちなみに、昨年



↑ 定例講座の様子。皆さん熱心に活動しています。

▶様々な世代の交流を目指して

“オレンジフェスタ”は、高齢者の状況や抱えている課題について理解を深めてもらい、「地域住民が相手を思いやりながら交流するきっかけ」になってほしいとの思いで、令和元年7月13日に開催されました。

「認知症VR体験」コーナーでは、子供から大人、高齢者まで様々な世代に認知症の類似体験をしていただきました。

また、東北福祉大学総合福祉学部の学生にブースの企画から運営まで携わっていただきました。学生が企画した昔遊び、クイズ、体操はいずれも大好評で、笑

顔や笑い声が溢れる、世代を越えた交流の場となりました。それと共に、地域支援の次世代の担い手の育成にもつながる活動になったそうです。



← 昔あそびコーナーでは、幅広い世代が交流する、良いきっかけとなりました。



← オレンジフェスタで設けた認知症VRコーナーで、子供たちが体験している様子。



事例のポイント

地域に住む皆さんそれぞれが抱える課題（暮らしづらさ）について、まずは互いに理解するところから始めて、助け合う関係を構築していくというスムーズな流れが出来ています。

「さかいの地区 魅力ある地域づくり」—歴史ある資源の掘り起こし、産直市による地域活力アップ— ～さかいの地区創生会の活動～

▶ 立ち上げのきっかけ

仙台市西部にある境野地区は、秋保総合支所近くの農業が盛んな地域です。かねてより少子高齢化や地域づくりの担い手不足による町内会の活気不足、イノシシ等有害鳥獣による農作物への被害、休耕地や空き家の増加等、課題が山積していることは地域全体が認識していましたが、その解決に取り組む仕組みや体制がありませんでした。こうし

た状況を打開するため、「自分たちの世代で手を打たなければ」と地域課題解決に向けた機運が高まってきた中で、仙台市の補助事業制度「仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト」制度を活用して、住民が一体となった活力ある地域づくりを始めようと「さかいの地区創生会」が設立されました。

▶ 活動内容

さかいの地区創生会では、取り組むテーマを「交流拠点整備」「森峯山環境整備」「散策・探訪ルート整備」「地域資源活用」の4つに絞り、それぞれ部会を運営しています。

①交流拠点部会：以前から地元婦人部の「境野みのり会」が行っていた産直市をベースに規模の拡大と地域の活性化を目指し、新たに立ち上げました。集客拡大のため、道路沿いに看板やのぼりを立てるなどの工夫をしながら、JA倉庫を借りて6月から10月までの毎週土・日曜日に産直市を



↑ 毎週多くの人で賑わう産直市



↑ 整備ルートの調査をしている様子

実施しています。昨年は33回開催し、一昨年を上回る1,710名の来場がありました。

②森峯山部会：荒廃が進み、イノシシの住みかとなってしまった里山（森峯山）を交流や集いの場所として有効活用するため、下草の刈り払いを行って、地域のシンボルとし

ての環境整備を進めています。今後は、先人が植えた老木桜や山頂の景観を活かした観光スポットとする予定です。

③散策・探訪ルート部会：境野地区には、藩政時代、仙台城下と山形の最短路だった古道「板風道（いたおろしどう）」があり、史跡等が点在していることから、これらを結んだ散策・探訪ルートを整備していく予定です。自然観察会やトレッキング等の新たな観光資源につなげ交流人口の拡大を目指します。



↑ 環境整備のために、専門家を招いて現地調査を行う様子



↑ 貴重な水生生物でもあるモリアオガエルの卵

④資源活用部会：地域にはたくさんさんの農業用のため池などがあり、貴重な水生生物が生息していることが分かったことから、保存活動や観察会を見据えた実態調査を行っているところです。昨年は用水路探索や、アート案山子の製作・展示を行いました。

▶ 活動の工夫や今後の進め方

各地域からの協力者をメンバーとして、それぞれの部会に振り分けて、部会ごとに調査・検討を行いながら決めた活動計画は、月1～2回の定例会の場で情報共有を図り、境野町内会をはじめ、水利組合や実行組合等、地域の各団体とも連携を行いながら活動しています。

産直市ではPRに力を注いだことで、売り上げが向上したほか、来訪者向けアンケート調査を実施し、多くの意見や要望も頂き、今後の取り組みにつなげることができました。また、中古レジとPC活用により、精算業務の効率が

大幅に改善し、出品参加者も増えました。産直市の価格は生産者に一任していますが、市場価格よりかなり安いことから、今後は活動経費も加味しながら、適正な価格設定を検討することや、更なる参加者の増加と若手後継者の育成が課題となっています。

里山整備や散策・探訪ルートの整備に向けた実地調査・検証、資源活用に向けた水生生物調査を通し、この地域の歴史的・文化的な価値や、希少生物を育む豊かな自然環境の魅力を住民自身が改めて発見・認識しています。いずれも時間と労力のかかる活動なの

で、拙速に取り組むのではなく、専門家等からも助言を得ながら、地域住民や地域外の人材の携わり方を進め、継続性や維持管理体制の構築に向けて活動しています。

事例のポイント

高齢化や担い手不足のように、「どこでも起こりうる地域課題」に対し、仙台市の助成制度を活用することで、専門家のアドバイスを受けながら事業を進めることができ、より効果的な事業となっています。

地域の縁側をつくる四つの活動 見守り・助け合い・居場所づくり・健康づくり ～結いの会・高森東～

▶ 背伸びをしないでできる活動から



↑ 研修会の様子

平成23年5月に「高齢者サロン活動の他に日常生活支援も必要」という声があったことをきっかけに、アンケート調査やワークショップの開催、準備委員会での検討を経て、平成28年4月に『結いの会・高森東』は設立されました。

会の組織体制は理事会と4つの活動部門からなり、約300人のサポート会員のうち、約100人が活動会員として登録しています。各地域団体のほか、地域包括支援センターや泉区社会福祉協議会、宮城大学といった様々な団体と連携しながら、活動部門ごとにミーティングや勉強

会・研修会を行っています。

小川理事は、「『結い』というワードが人と人のつながりを結び、人と地域のつながり・助け合いのイメージに合うことから『結いの会』に決まった。活動を始めてからまだ4年で、やっと土台が出来つつあるところ。今は意欲的な方達の協力のおかげで活動できている。大きく手は広げず、背伸びをしないで、できることをやっていく。」と話してくださいました。

▶ 安心して歳を重ねることを目指して

『結いの会・高森東』は安心して暮らしていける地域づくりのため4つの活動をしています。

①「見守り・安否確認活動」では、地域で孤立する人が出ないように、各地域団体等が情報の共有・活動の連携などを行い皆で支え合う「見守りネットワーク」を立ち上げ、地域としてどのような見守り、支援をしていくかを協議しています。

②「お互い様の助け合い活動」では、日ごろの暮らしの中で、手助け（ゴミ出し、庭の手入れなど）が必要な依頼者と、手伝いができる活動会員を各町内会にいるコーディネーターがマッチングを行い、活動を有償で行っています。

③みんなの居場所づくり「結いカフェ」では、地域の商業施設のオープンスペー

スで、週2回（月・金11時～15時）実施しており、地域で助け合うきっかけに近づけています。

④健康プロジェクトでは、結いの会の活動を支える60代・70代を対象として、『ずーっと元気で!!』を合言葉に健康体操を月2回（第1・3水曜日午前）開催しています。

結いカフェの参加者にお話を伺うと「ここでは気軽に話ができて、笑いが出る。」「家でテレビを見ているより、楽しく話せる」と話してくれました。また、「男性の方をどうやったら連れて来られるだろうか。」と参加者同士で知恵を出し合う場面も。カフェスペースと通路を区切る柵は、参加者が通行人の目を気にしないで話ができる一方で、通行人に「ここで、何をしているんだろう」と



↑ 皆さんの憩いの場となっている「結いカフェ」

活動の様子に興味をもってもらえるように高さを工夫したそうです。加賀屋副代表理事からは「近くで様子見されている方を見かけたら、声がけしているんですよ」と教えていただきました。

▶ “人財”と賛同者

結いの会の歩みについて、加賀屋副代表理事は「今まで地域の活動に携わっていなかった方が、結いの会を立ち上げる際に手を挙げてくれた。活動を始めてからは、地域のボランティアが増え、地域力に繋がっている。」と、佐々木理事は「地域に顔見知りが多くなり、地域で困った時に連絡できる相手が増えた。地域で生活を続けていくためには、人と繋がっていくことが大事ですね」と話してくれました。

課題について、小川理事は「後継者“人財”（人は財産）と、賛同者を増やすことが大事。地域には色々な特技を持っている人・優秀な人はいっぱいいるがなかなか手を挙げてくれない。そういった方に

手を挙げてもらうには、家族の後押しが必要」と話します。続けて、「地域に住まわれる誰もが『結いの会』に気兼ねなく参加してくれるようになること。地域に住まわれる方自身が住みやすい地域になったと思えること。また、そのため



↑ 多くの方でにぎわう健康体操会の様子

に、活動の中で理解・賛同を得ていきたい」と今後の展望を教えてくださいました。

結いの会・高森東の活動は、安心して住みよい地域づくりのため、これからも「人と人」、「人と地域」を結び続けます。

事例のポイント

活動を継続させるため、あらかじめ地域のニーズを把握したうえで、意識を共有し、計画的に始めたことで、背伸びせずに「やれることをやる」、「できることをする」といった負担感の少ない活動が実現できています。